

「かながわこどもまんなかアクション」応募用紙

2026年 月 日

神奈川県知事 殿

次のとおり、「かながわこどもまんなかアクション」に応募します。

1 概要

(省略)

2 こどもまんなかアクション取組事例

※以降の項目は事例集へ掲載する内容となります。記載に当たっては過去の事例集をご参照ください (https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1386/kodomo-mannaka/assets/pdf/kanagawa_mannaka_action2025.pdf)。

2-1 取組概要

名称 (原則20文字以内で記載してください)	オルタナティブスクールの運営		
取組事例 (80~100字程度で記載してください)	「不登校を学びの時間」と捉え、より多くの方に不登校の課題と「好きなことを通じて学ぶことの楽しさ」を伝えたり、一緒に感じたりしていきたいという気持ちで始めた取組です。		
主な子どもの対象年齢	6 歳 ~ 15 歳 / (小中学生)	取組開始時期	○年○月
取組分野 ※最も当てはまる1つを選択	<input checked="" type="checkbox"/> 居場所づくり/こども食堂 <input type="checkbox"/> こども・子育て応援 <input type="checkbox"/> 体験型等こどもの育ち応援	<input type="checkbox"/> 共生社会(インクルーシブ社会) <input type="checkbox"/> こども・若者主体のアクション <input type="checkbox"/> 共働き・共育て	
SNSでの「#こどもまんなかやってみた」の発信有無	<input checked="" type="checkbox"/> (2024年10月20日、媒体(X(旧Twitter)))・予定(月頃)		

※ 記載に当たっては、既存の資料を活用するなど、自由にPRをしてください。

2-2 ウェブサイト

取組事例を紹介するウェブサイトがある場合は、URLを記載してください。

URL: <http://www.~>

2-3 写真

(省略)

3 取り組みのきっかけ

取組を始めるに至った経緯、エピソード等を具体的に記載してください。

中学・高校時代に不登校の経験を持つ当社社員からの社内における事業提案制度により、社として「不登校」が抱える現代社会の課題について、社内の理解を得られ、試験的に事業化するに至りました。

4 アクションに対する反応

参加した子どもや保護者からの反応や意見等の内容をできるだけ具体的に記載してください。

子どもは、自分の「好き」が満たされる環境を求めており、共感・共有できる仲間・スタッフがいることで、自分の「好き」についての繋がりづくりができています。
また、保護者の方からも、「自分の好きなことをできる場所」、「シェアできる場所を求めていたけれど近くなかった」ということで、ニーズに合った形で当社のスクールを選んで通っていただいています。
また、名前の通っている大企業が子どもを取り巻く社会課題にアプローチすることで、社会解決の自分事化、不登校児や保護者が勇気づけられているという声をいただいています。

5 アクションによる効果

取組をきっかけに、地域社会の活性化など社会的課題の解決に繋がった等、所属内外で自然発生した変化があった場合にはその内容をできるだけ具体的に記載してください。

スクールの子どもが通う学校と対話をする中で、スクールでの普段の様子を伝えられたり、子ども自身を見守れる大人が複数いることで、子どもにとってもスクールに支えてもらえる、育ててもらっている場所が沿線地域にあることで、地元の学校や地域との良い連携ができています。

6 自由記述

子どもや子育てにやさしい社会づくりへの今後の展望や、職場環境の整備に関して特徴的な取組があれば、具体的に記載してください。

子ども向けのコンテンツを継続して実施するなど、当社の「子育て応援ポリシー」に基づいた施策を実施していきます。
スクールに関しては、沿線外に居住する子どもに向けてもアプローチをしていきたいと考えており、オンラインのフリースクールも実施していきます。更に、様々な企業先と連携して、居場所を作ることで、「好き」を「好き」とシェアできる居場所が増えるとよいと考えています。